

記 事

消 息

Basham Medical Award

松岡尚則^{1,2)}, 安部郁子¹⁾¹⁾ 公益財団法人研医会²⁾ 東邦大学医学部東洋医学研究室

Basham Medical Award は, Arthur Llewellym Basham (1914~1986) 氏にちなんで設けられた賞である。Basham 氏は多くの著作をもった高名な歴史家であり, インド・アリア (Indo-Aryan) 学者であったイギリス人である。

表彰は2017年8月11日にドイツのキール市にあるクリスチャン・アルブレヒト大学 (Christian Albrechts Universität zu Kiel) の附属施設である Kunsthalle zu Kiel で開催された。表彰の前に, ハーバード大学栗山茂久氏から, 酒井シヅ氏の業績や人柄の紹介があった。

受賞された酒井シヅ氏から Basham Medical Award Lecture として, 「What matters most? (for understand-

ing medicine in Japan)」と題する講演が行われた。

「1976年日本の厚生省の48処方の漢方エキスの認可が行われた。一方, 厚生労働省による1993年, 1998年, 2010年と度重なる漢方薬の除外の試みは失敗した。現在, 日本の臨床医の約90%が伝統医学の治療を行ったことがある。」と報告した。さらに, 「日本の厚生労働省は, なぜ, 漢方を影に置こうとするのか?」と提起した。そして, 「漢方が認可された背景には2つのことがある。」とした。「1つは, 日本医師会の会長であった武見太郎 (1904~1983) は大塚敬節 (1900~1980) の患者であり友人であった。力のある医師の個性が漢方と結びついたという重要なセレン



写真1 受賞記念品を受け取る酒井シヅ氏



写真2 受賞を祝って集まった日本人・中国人たち

ディピティがあったということ。2つは、1950年代から近代の医薬品による医源性の事象がみられるようになったことである。サリドマイド(Thalidomide)は約300人の奇形の赤ん坊を生じ、クリオキノール(Clioquinol)は約3万の麻痺や視力障害を引き起こした。当時、新薬の危険性に

人々の意識が至って、漢方が見直される空気があった。しかしながら、漢方には副作用がないというのは神話である。1990年代小柴胡湯による死亡が生じた。」最後に酒井氏は、「今日、日本で鍵となる問題は、伝統医薬品と伝統理論の乖離である。」とまとめられた。

例会記録

第49回日本医史学会神奈川地方会 秋季例会・

日本医史学会9月例会 合同例会

平成29年9月30日(土)

鶴見大会館

依頼講演

医史学とマス・コミュニケーション

津田篤太郎先生

企画講演①

黒死病の本態 再々考

滝上 正先生

企画講演②

人類と感染症の歴史：天然痘を中心に

——新興感染症の危険性は減ったのか

加藤茂孝先生

特別講演

西洋医学はなぜ19世紀から発展し現代医学となり得たのか

日本医史学会理事長 坂井建雄先生

日本医史学会10月例会

平成29年10月28日(土)

順天堂大学第2教育棟303教室

1. 『神農本草経集注』と『新脩本草』

——苦菜をめぐる両者のスタンスについて

岩間眞知子

2. 『杉田玄白評論集』の出版について 片桐一男